Japanese Association of Educational Psychology

社　会　5（528～535）

座長　阿久根求・根本橘夫

528 役割付与と社会的評価が児童のリーダーシップ変化におよぼす効果
大分大学　阿久根　求

529 SSA-II による幼児集団構造解析の試み（序報）
名古屋女子大学　平　林　進

530 集団問題解決における集団構成の効果に関する研究
名古屋大学　杉　江　修　治

531 集団におけるメンバーの所属度把握法の研究（1）
大阪電気通信大学　下　村　武

532「学級集団作り」の教育心理学的研究（序）
千葉大学　根　本　橘　夫

533 同化行動に関する実験的研究
—モデルに注意が狭窄する場合—
早稲田大学　内　藤　哲　雄

534 リーダー選出の型と処理がリーダーシップに及ぼす効果
日本生産性本部　今　井　保　次

535 学級担任教師のリーダーシップ類型が学級雰囲気及び学級集団凝集性に及ぼす効果
埼玉大学　石　川　章

阿久根（528）に対し，内藤（早大）から，現存の学級の影響力を測定するには，PM 尺度は有効とはいえないのではないかとの質問が出された．発表者は，測定用具として最適とはいえないかもしれないが，もう1つの研究目的と関連づけることも意図していたので用いた旨の回答があった．また千野（愛学大）より，結果としての評価は集団に与えられたのかリーダーに与えられたのかという質問がなされ，リーダーを含む集団に与えられたとの回答があった．

平林（529）に対して，田中（信大）は，ソシオメトリックテストは単に記述に終るべきではない，という基本的立場から，① 幼児集団を被験者にした理由，② 構造の変容に対して指導の手が加えられたのかとの質問がなされた．発表者は，① に対して，構造の変化をみるのに適切であると判断したこと．② に対して，指導は行われなかったが，研究の基本的方向は，実践上役立つことを目ざしているとの回答があった．また根本（千大）から，空間上の距離はいかなる心理的意味があるかとの質問がなされ，一緒に遊ぶ程度に対応しているとの回答がなされた．

杉江（530）に対し，内藤は2人集団の結果を集団一般へ一般化するのは制限があると思うが，何故に2人集団としたのかの質問が出された．発表者は，そうした制限は認めつつも，2人集団を集団の要素として考えている旨の答がなされた．さらに，課題要因，個人的要因をどう考えるかとの質問に，両要因の結果への影響はあると思うが，研究の視点は子どものエゴセントリックな行動の側面にある，と答えた．

下村（531）の発表に対しては，千野より，データを一次関数とみているが該当しない部分があるとの指摘がなされ，発表者も部分的に合わない所があると回答した．原岡（佐賀大）より，主観的データは，その内容が水準，複雑度とも異なるので，そのまま対応させるには無理があること，及びベテラン教師の主観的評定を客観的にとらえていくような研究方向ですすめるとおもしろいのではないか，との意見が出された．

根本（532）の発表に対し，杉江より，集団主義の目標は個人の学力の保障をはじめとする個人の人格完成という目標と相容れない所があるのではないかとの質問がなされた．根本は，個人を発達させることを考えない集団の発達はあり得ない．個人の発達を集団的力に依拠しつつ促そうとするものである，と答えた．次に原岡から，問題意識は「全国生活指導研究協議会」の班指導の効果性を検討するところにあるようだが，研究自体は「全生研の班指導だけ」でなく，他のものもあり，それが一緒になっている．また集団効果は意識的なものより無意識的なものが多い．この点を考えて結論を出してほしい，という意見が出された．

今井（534）に対し，千野より，Table 3, 4 の各セルでの分散比の最大のものは $F=6.62^2/2.36^2 \fallingdotseq 7.87$ で，等分散仮説の検討がなされたかどうかとの質問があった．発表者からは，分散分析の各セルの分散の大きさの検討については検討したと思うが，もう1度確かめてみるとの回答がなされた．

石川（535）に対して，千野より，Table 1 の t 検定は，項目間に相関が考えられ冗長ではないか．また Table 3 の χ^2 検定はセル内に5以下の小さな値があり，多少 χ^2 値に問題があるのではないか，という指摘がなされた．田中からは，凝集性の概念について，過去の既成の公式にだけたよるのではなく，凝集性によって導きだされるものに対する期待がどこにあるのかを独自に考えてよいのではないか，との意見が述べられた．（阿久根求・根本橘夫）

NII-Electronic Library Service